

ワールドカップ

糖尿病と、食べ過ぎの年中行事は、1月のお正月に始まり、2月は節分にバレンタインデー、3月にはひな祭り、義理のチョコのお返しのホワイトデー、さらにお彼岸と続き、しめは何といっても送別会や退職ということになります。もう2度と会えないかもしれないといっちは酒量が増えます。これが温泉で開催されると、飲んだり食べたりで、血糖は上がりっぱなしです。4月には、新入社員の歓迎会、お花見と続き、花より団子、団子よりお酒といっちは酒量が増えます。5月はゴールデンウィークと子供の日、農家の人にとっては田植えのシーズンということになります。これらに全部参加しているのは、糖尿病はコントロールできません。6月は、結婚式のシーズンです。

食べ過ぎると太るばかりですが最近の若い人は、こういう時にはあまり食べません。私のクリニックに通院している年配の患者さんも真似してくれるといいのですが、戦前戦後の物のない頃の習慣が抜けないのか（抜けないということにしているのか）やっぱり食べてしまうようです。でも、1月から5月に比べると6月というのは、比較的、催し物のない月で糖尿病の患者さんの血糖値は安定していました。しかし、今年は違いました。そうです。今年はワールドカップ開催の年だったのです。ワールドカップでは、日本中、大いに沸き上がりました。特に日本戦はサッカーを知っている人やにわ

かサッカーファンにも、大きな、感動を与えてくれました。青地さんは、今年77歳になる糖尿病患者さんで、インスリン注射をしています。“先生、ワールドカップっていいもんですなあ！”とある日の診察風景。私は“そうですねえ、こんなに日本の試合が盛り上がると疲れるでしょう”と話したところ、“それがねえ、先生、私はにわかサッカーファンですが「ワールドカップ」を縮めると何に聞こえますか？”私が“なんと聞こえますか？”と尋ねると“それはねえ「ワンカップ」と聞こえるんですよ。英語は短くして発音しろというじゃないですか”“それでね！ワールドカップの試合があるたびにテレビの前の特等席でワンカップを飲めるんですよ”と“もう、日本戦でなくとも、ワンカップが飲めると思うと、力が入って、どのチームにも応援しているんですよ。ワールドカップがいつまでも続くといいですなあ〜”とのこと。患者さんの糖尿病をコントロールしている医療側からすると、6月が一年を通して一番血糖値が落ち着いているはずなのに、今年は仕方がないと、あきらめの心境です。青地さんだけでなく、ワールドカップのお蔭で寝不足と食べ過ぎ飲みすぎの方が多く、7月の診察の日をハラハラしながら迎えることになりそうです。

ワールドカップが終わると、仙台にも本格的な夏が到来することになります。